

平成26年度 区政懇談会での発言・回答

東山の下地区コミュニティ協議会

日時：平成26年5月22日（木）

15：00～16：45

会場：中地区コミュニティセンター



発言：平成27年度に解体予定の**市営物見山第一住宅の跡地**は、高台であるため浸水または津波の際の避難場所として整備することは、跡地活用の一つの方法である。地元コミ協から、跡地を防災福祉センター、防災公園にしてほしいとの要望を受けていることについて、昨年6月の市議会定例会で土木部長が「今後関係課で協議検討したいと考えている」と答弁したが、その後どのような討議、検討が行われているのか。

回答：市営物見山第一住宅跡地は、売却ではなく防災機能を持った公園として整備をする方向で考えている。簡易窯、テントを張れるスペースなど、何が必要になるかを、解体後の整備に向けて検討を進める。

発言：**市営物見山第一住宅前の道路**は緊急時に車両が入りづらく、かつスリップして登りにくいなど非常に危険であり、防災機能を持った公園を造るのであれば、近辺道路の整備もお願いしたい。

回答：該当箇所に関しては両側に擁壁があり、個人の住宅もあるため、道路を直線にすることは現実的には難しい状況だ。ただし側溝に蓋のない箇所には、蓋をして少しでも使いやすいようにしていきたい。

市営住宅のご質問の反対側である西側には2.4mから4mくらいの狭い道路があり、可能な区間において拡幅に取り組む予定である。公園の機能を整備していく中で道路の拡幅についても強く要望していく。

発言：**災害時の避難所**について、現在東山の下地区内の避難所として4か所が指定されているが、当地区の住民の他にも船江町などの桃山校区からも多くの避難者が来ることを考えると、避難所が少ないのではないか。

また、現在県立聾学校は避難所に指定されていないが、その理由を教えてください。

回答：災害時に住民全員が避難所で避難生活をするわけではない。平成18年度実施の防災

基礎調査による、家屋の倒壊などにより自宅での生活ができなくなり避難所で生活せざるを得ないという避難想定人数は、現在の4つの避難所で受け入れ可能と考えられることから、聾学校は避難所に入っていない。

しかし平成18年度から状況も変わっており、東日本大震災を踏まえて今年度に危機管理防災局で新たに防災基礎調査を実施する予定である。その結果さらに避難所の確保が必要になれば、県立聾学校も新たな避難所として検討する。

発言：平成25年度の夏、山の下まちづくりセンターで行事を行った際に管理人に冷房を入れるように依頼したが、規定温度の28度に達していないため入れられないと言われた。そのため暑い中で行事をせざるを得なかった。

山の下まちづくりセンターの**冷房の設定温度**28度は現場の状況で変更できないのか。

回答：市の節電の取組みとして、行政庁舎では冷房を入れるのは28度、暖房を入れるのは20度ということで運用しているが、市民の方が使用する貸館施設などは、利用者に支障のない範囲で節電を実施することとしており、利用者の構成や使用目的などに応じて柔軟に対応するようまちづくりセンターにも指示している。

発言：**BRTシステム**に関して、4月27日の市報にいがたで新バスシステムの運行事業協定が締結されたと報じられたが、結節点の位置は触れられていない。結節点の位置は最終的に決定されたのか。

回答：市報にいがたの記事は、第一期期間についての新潟交通との基本的な運行協定である。今後より詳細な協定の締結に向けて検討を進めている。

東区のバス路線や交通結節点については、BRT運行開始後概ね5年をかけて段階的にバス路線の再編をしていく中で、今後検討していく。

また連節バスの乗り方や乗り継ぎの際の料金などに関しては現在検討中である。それが決まり次第、秋頃から市民の皆様に周知を図る予定。

発言：**新バスシステム**は、特に高齢者が乗り継ぎを余儀なくされるのが一番問題点として意見が上がっている。乗り継ぎが不便なく利用できるようお願いしたい。

回答：乗継ぎについては、歩く距離を短くしたり、スムーズに乗り換えられるようダイヤを編成するなど、利用者の負担が軽減できるようにしていく。

発言：町内にある**一時避難場所**の2つの公園は標高の高いところにある。そこで防災訓練などを行っている。しかし、これらの公園には防災的な施設や設備がなく、どのようなものが必要かもわからない状況である。また町内会館も地震の際には、避難所になると思うが、公園や町内会館に、どのような防災設備が必要か教えてほしい。

回答：世界的な基準では災害時の避難の場合3つある。1つ目は緊急時に一時避難場所までとにかく逃げるという緊急避難、2つ目は次の段階として自宅に戻れない方が一定期間避難所で一時生活する滞在避難、3つ目が仮住まいに居住する難民避難である。それぞれのパターンに応じて必要な設備が出てくると思われる。一時避難場所である公園の広さも様々であり、それに依拠して今後どうすべきか、また地元からの要望を防災課に伝えたい。

発言：**道路の舗装**について、雨が降ったときにすぐ浸透していく資材は非常よいが、カーブのところの材質がすぐに欠け、隣接する住宅は清掃が大変である。歩道などには有効な材質と思うが、車道には適さないのではないか。

回答：修繕を行っていききたい。

発言：じゅんさい池公園の**松くい虫対策**について、東池の方はマサギ、アオキが繁茂して松が蔦と絡まり藪になっている。ある程度藪になったものを刈らないと松くい虫は防げないと思う。

また伐採したあと、藪の中にそのままにしてあるものは、運び出してほしい。

回答：東池辺りで松に蔦が絡んでいる状態は既に確認しているが、その取り扱いについて、再度状況を確認し、適切な処置を考えたい。伐採したものの運搬は非常に労力のいるため、専門業者に依頼することも考えたい。

→8月5日に関係者と協議をし、10月にニセアカシアの伐採と一緒に蔦の処理を行う予定となった。

発言：町内会では地震に備えて発電機など**防災に関する資材の購入**を検討している。しかしそれをするには町内会費を値上げしなければならないため悩んでいる。市で対象となるような助成はないか。

回答：自主防災組織活動助成金やコミュニティ活動設備整備補助金などの補助制度がある。ご相談いただきたい。

発言：公園のトイレの標準規格はどうなっているのか確認させていただきたい。じゅんさい池公園のウオロク側のトイレは男性のトイレに衝立がなく横から丸見えだったため、1 mくらい手前に衝立板を作ってもらったが、不十分なため、自分たちで工夫をして土塀を付けた。

回答：整備の際によく検討をしていればこのようなことは防げた。大変申し訳なかった。

発言：藤見が丘公園のトイレの清掃管理はどうなっているか。

回答：トイレの清掃については、地元の方をお願いしている。地元の方と調整が図れなかった場合は、業者に依頼している。気候のよい時期はほぼ毎日、冬場などは週1～2回程度の清掃を行っている。

発言：公園トイレのトイレットペーパーを持ち去る人がいると聞いている。鍵のついた場所に保管するなど、管理方法を考えるべきではないか。

回答：管理方法を検討し、改善していきたい。